

* 労働市場速報（平成27年9月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、100,003人で、前月比1.6%減となった。
- 有効求職者数（季調値）は、104,871人で、前月比2.6%減となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は0.95倍となり、前月から0.01ポイントの上昇となった。

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、33,724人で、前月比2.1%減となった。
- 新規求職者数（季調値）は、23,113人で、前月比5.3%減となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.46倍となり、前月から0.05ポイントの上昇となった。

- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、製造業（7.6%減）、運輸業、郵便業（11.0%減）、宿泊業、飲食サービス業（16.0%減）、サービス業（9.5%減）で減少した。他の産業は増加した。
全産業では前年同月比0.6%の減少であった。【表4】。

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比12.7%減）、在職者（同11.5%減）、無業者（同21.6%減）でともに減少した。

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、9月の受給者実人員は29,793人で、前年同月比6.8%減少した。

（雇用情勢の概況）

9月の有効求人倍率（季調値）は0.95倍で前月から0.01ポイント上昇。
求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比0.6%減少、新規求職者（原数値）については、14.6%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

■景気判断は日銀横浜支店（10月） ■雇用情勢判断は2ヶ月据え置き

今後も、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。